



肺にある、「肺胞」の数はどれくらいあるの

「肺胞」の数は、約3～6億個

肺は、肺胞とよばれる、直径0.1～0.2ミリメートルほどの、小さなふくろの集まりで、その数は、両方の肺で3～6億個あるといわれています。そして、その全部を広げると、空気をはき出したときで、30～50平方メートル、空気を深く吸ったときには、100平方メートルにもなるといわれています。これは、わたしたちの体の表面積の、約50倍にもなり、テニスコート半分ほどの広さになります。

「肺胞」のはたらきは

肺は、空気中の酸素を血液の中に取りこみ、二酸化炭素を、体の外に出すはたらきをしています。口や鼻から吸った空気は、のどから気管を通り、気管支へ入り、しだいに細かく枝分かれして、最後に肺の「肺胞」へ運ばれます。

「肺胞」は、ものすごくうすい膜でできたふくろで、ブドウのふさのように、つらなっています。「肺胞」のまわりは、肺動脈から肺静脈となる毛細血管が包んでいます。

肺に入ってきた空気中の酸素は、「肺胞」のうすい膜を通して、血液中に入り、血液が運んできた二酸化炭素は、「肺胞」の中に出され、息をはくときに体の外へ捨てられます。つまり、「肺胞」は、肺の中で、酸素と二酸化炭素を、入れかえるはたらきをしているのです。

(監修・保志 宏)

肺胞 - 毛細血管で
包まれている

